

ハクセンシオマネキが
多く生息する干潟



①ハクセンシオマネキの雄。白い大きなはさみを振ります②右が雄、左が雌です③ハクセンシオマネキが多く生息する玉江橋周辺の干潟。雄のはさみが白い点のように見えます＝8日午後3時10分ごろ、鹿児島市の祇園之洲公園



ハクセンシオマネキは雄が大きなはさみを振ります。その様子がまるで海の水(潮)を手まねきしているように見えることから名付けられました。「ハクセン」は漢字で「白扇」、白いはさみを扇に見立てたネーミングです。

鹿児島市の祇園之洲周辺の干潟は、県内有数のハクセンシオマネキの生息地です。祇園之洲公園に架けられている石橋の下では、おびたしい数のハクセンシオマネキがはさみを振る様子を見ることができま

晴れ間が広がると、暑さを感じる5月。日差しを待ちわびていたカニたちが穴から出てきました。ハクセンシオマネキです。



ハクセンシオマネキ すみかの干潟減る

す。
シオマネキは甲羅の幅が2センチ程度。潮が満ちてくると巣穴に隠れてしまうので、干潮の時しか見られません。雨が降って気温が下がると、穴に引きこもりがちになります。

祇園之洲には数え切れないほどいるハクセンシオマネキですが、環境省のレッドデータブックでは、絶滅危惧Ⅱ類(近い将来における絶滅の危険性が高い種)に指定されています。その理由は、すみかの干潟が減っているからかもしれません。

干潟はぬかるんでいて人間が利用しにくいことから、港や埋め立て地など、開発の対象となってきました。しかし近年、海と陸をつなぐ場として多様な生物が暮らし、水質浄化にも役立つしていると、改めてその重要性が評価されています。

皆さんもシオマネキを眺めながら、身近な環境問題を考えてみるのはいかがでしょうか。

(魚類展示係飼育員・広瀬純)